価値創造の歴史

社会課題に向き合いながら 110年を超える成長を持続

当社は1913年、ドイツ系の機械輸入商社エル・レイボルド商館を母体とし、
「合資会社建材社」の名で歩み始めました。
創業以来、113年の年月が経過し、
大気社グループはおよそ5,000人の従業員を抱える
グローバル企業グループへと発展を遂げました。

創業
1913

ドイツ系の機械輸入商社を母体として、
「合資会社建材社」として創業

1918

近代化に伴う産業施設・近代建築の増加

我が国初の近代的オフィスビルである東京海上ビルに、
日本初の強制循環式
温水暖房設備を納入。
高度な設計・施工能力を持つ
暖房設備会社として地位を築く。



1933

主要な輸出産業として紡績業が盛んに

当社初の紡績工場空調、
近江帆布三瓶工場に
空調設備を納入。
「繊維の時代」を
支える存在に。

1959

高度経済成長とモータリゼーションの進展

東洋工業(現・マツダ) から初めて
自動車塗装一貫ラインの工事を受注。
塗装システム分野へ
進出する契機となった。



1973

公害問題・環境保全への関心の高まり

「建材社」から「大気社」へ社名変更。
「きれいな空気を取り戻す」という
意思を社名に込める。



1980年代

自動車産業のグローバル化

日系自動車メーカーによる
アメリカ進出が加速し始め、
当社は塗装ロボットを受注。
アメリカのビッグスリーからの
塗装プラントも受注。



1990年代

IT化・デジタル化の進展

半導体需要が拡大する中、
DRAM製造装置用大型
クリーンルーム設備工事を受注。
先端産業分野での
プレゼンスを高めた。

2021

空調制御技術を活かした植物工場事業の領域拡大

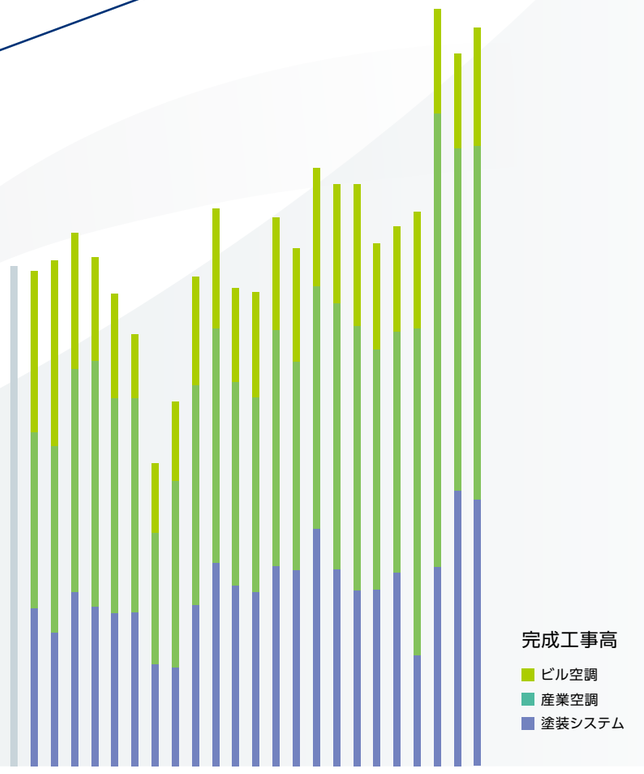
株式会社ベジ・ファクトリーを設立。
環境エンジニアリング会社
としての技術を活かし、
植物量産実証工場を建設。



2026

未来に向けて

2025年に、初めての長期計画
「10年プラン2035」を策定。
2026年には新たに
パーパス・ビジョン・バリューズを策定。



社会の変化とともに
価値創造の領域を拡大



1913–1948

近代日本の基礎づくりを担う

当社は1913年、ドイツ系機械輸入商社エル・レイボルド商館を母体に「合資会社建材社」として創業しました。創業当初はドイツから輸入した建築材料の販売・据え付けを中心に行っていましたが、蒸気暖房ボイラなど設備納入に工事が伴うようになり、ドイツから暖房工事の技師を招いて最新式の暖房技術を導入しました。

1918年完成の東京海上ビル（日本最初の近代的オフィスビル）に強制循環式温水暖房設備と浄化槽を納入し、建築設備業界での地位を確立しました。

1930年代からは紡績産業の伸長を背景に、空調システムの設計施工を手掛けたことにより業績を拡大し、1935年に米国製「スチームゼット」技術を導入して蒸気噴射式冷凍機の国産化に成功しました。

1949–1970

高度経済成長とともに事業領域を拡大

第2次世界大戦によって、日本の製造業は壊滅的な打撃を受けたものの、戦後は繊維産業に加え、カメラ、フィルム、医薬品、電子などさまざまな分野で工場建設が進み、これらの工場では、製品不良を防ぐため、高い清浄度を維持できる空調設備が求められました。当社は、こうしたニーズに応える形で精密空調、そしてクリーンルームへと技術力を高めていきました。

1953年からは自動車の塗装設備事業に本格的に参入しました。モータリゼーションが日本に到来した1959年には、東洋工業（現・マツダ）から初めて自動車塗装一貫ラインの工事を受注。当社にとって、社運をかけたビッグプロジェクトでした。この自動車塗装分野は当社を支える大きな柱の一つに成長していきました。

1971–1989

グローバルな事業展開

当社は1973年、創立60周年を機に「大気社」と社名を改めました。折しも、日本で大気汚染などの公害問題が顕在化し始めた時代です。この社名には「人類をはじめ、全生物の存在と繁栄は正常な大気に依存する」ことを原点として、常に考え行動する「熱と空気のエンジニア集団」を目指すという思いが込められています。

同時期に日系顧客の海外進出に合わせタイなどへ拠点を展開し、顧客を地場・欧米系へも拡大していきました。1980年代にはアメリカで現地法人を設立し、日系自動車メーカーやアメリカのビッグスリーから塗装プラントを受注。国内はオイルショック以降「建設冬の時代」を迎えた一方で、中東地域ではインフラ投資が盛んとなり、プラントや病院の設備工事を受注しました。

1990–2001

IT時代の到来

1990年代は、インターネットや携帯電話の普及によってIT技術の普及が一気に進んだ時代です。クリーンルームの設計施工で先端的な技術を持つ当社は、IT機器の核となる半導体、ハードディスク、コンデンサなどの製造工場建設に参画し、電子部品業界における評価を高めました。

この時期、国内のビル空調分野では、通信関連施設の建設、また、都市部を中心に再開発や高層ビルの建設が増加しました。当社はこうしたプロジェクトを多く手掛けると同時に、これまで築いてきたグローバルネットワークを活かし、海外での建設需要も積極的に取り込みました。マレーシアのペトロナスツインタワーなど、ランドマークとなる建物の空調設備工事にも携わりました。

2002–2020

グループ総合力の時代へ

IT化の進展とグローバル化を背景に、当社グループでもグループ会社間での調達支援や人的リソースの相互活用を進め、プロジェクトを総合力で解決する事例が増加しました。2008年の世界的な経済危機下では経営の原点に立ち返り、全社を挙げて企業体質の強化に取り組みました。

新興国の躍進により世界経済に明るい兆しが見え始めた2010年代。グローバルネットワークの強みを活かし海外での建設需要を取り込み、2011年度には海外完成工事高比率（連結）が50%を超えました。その後も拠点設立や業務・資本提携を加速させ、ネットワークのさらなる強化を進めました。

また、2011年には結球レタスの安定量産化に成功。これを契機に完全人工光型植物工場事業へ参入しました。

2021–

未来を見据えて

パリ協定以降、脱炭素の潮流は一段と強まり、技術革新と社会変化のスピードも増しています。こうした環境下で当社は、「TAIKISHA INNOVATION SITE Aikawa」や「テクニカルセンター」など研究開発基盤を拡充するとともに、国内外にR&Dサテライトの設置も進めています。

グローバルに進展する産業革新を事業機会として捉え、「グリーン化」と「スマート化」を軸とするエンジニアリングで持続可能な社会への貢献を一層高めるため、2025年5月に長期計画「10年プラン2035」を策定しました。

さらに、変化の激しい時代においてグループが同じ志で未来へ踏み出すための指針として、2026年6月にはパーパス・ビジョン・バリューズを発表しました。